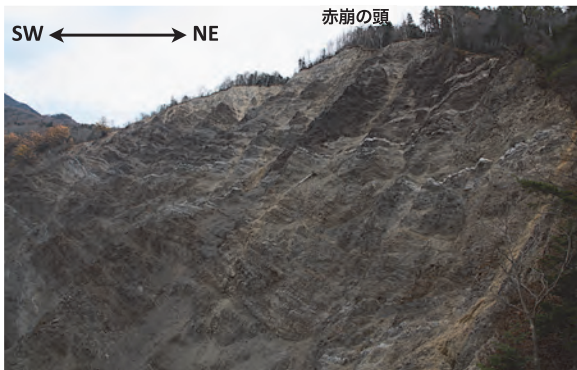


C042 赤崩の深層崩壊地形(静岡県GEO
DATA(27)特集3 : 地学散歩(106))

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡県地学会 公開日: 2023-11-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 狩野, 謙一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/0002000136

C042 赤崩の深層崩壊地形



前号の GEO DATA C039 では、大井川上流域に発達する深層崩壊地である赤崩と、崩壊に関係する線状凹地群の地形の全容を空撮写真で示した。ここでは地表から赤崩を観察しよう。地形図は、前述の GEO DATA を参照されたい。

写真上は東俣林道から望んだ光景で、上部に赤崩の崩壊地、大井川の左岸側に崩壊土砂が堆積した沖積錐が見える。沖積錐の観察は、ここから少し下った林道からのほうが良い。ここより下流側の大井川は大量の崩壊砂礫で埋積された幅広い河床を作り、さらに下流の畑薙第一ダムの湛水域まで連続する。

写真上の右側の尾根に沿った青薙山登山道の急坂を2時間ほど登ると、道は南にトラバースし、20分程度で池の平に到着する。池の平は比較的規模の大きな線状凹地で、湧水により小さな池が出来ている。C039で示した階段状の線状凹地は、ここから明瞭になる。

この凹地内を北に登ると、すぐに赤崩の滑落崖南縁部につく。ここからは深さ数10mに達する深層崩壊が観察できる(写真中)。この崩壊地を構成する地層は四万十帯の白亜紀層、寸又川層群の砂岩泥岩互層である。これに挟まれる白色の酸性凝灰岩層を目印にすると、閉じた褶曲をしていることに気づく。地層は全体として東に傾斜しているが、これは本来、西に急傾斜していた地層が大井川側にお辞儀をするように折れ曲がって変化した構造で、折れ曲がり面

が階段状の線状凹地群を形成し、さらにそれが発展して崩壊に至ったと考えられている。

滑落崖の縁を30分ほど登ると、赤崩の頭に到着する。ここから崩壊地を見下ろすと、急斜面を巨大なシャベルで掘り込んだような恐ろしい光景が広がる(写真下)。ここは南アルプス南部の絶好の展望地でもある。大井川のV字谷をはさんで荒川三山、赤石岳、聖岳、上河内岳、茶臼岳を望むことができる。

登山道をさらに進むと線状凹地群が発達した緩やかな凹凸がある、だが全体的には平坦で幅広い尾根となる。ここをすぎると青薙山への登りがはじまる。(狩野謙一)